



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

掛け吊り用の上面に掛けられるトップフックと、  
前記トップフックに連続する支軸と、  
前記支軸の下部に取り付けられるボトムフックと、  
前記トップフックの上部に取り付けられる二つのトップアームとを備え、  
前記トップアームは、前記掛け吊り用の上面に沿って相互が拡開する開位置、及び相互が閉じる閉位置との間で変位可能であり、前記開位置の二つのトップアームと前記トップフックの先端部とにより前記掛け吊り用の上面に三カ所支持で取り付けられることを特徴とするバッグハンガ。

10

**【請求項 2】**

前記トップフックの上部に設けられ、バッグのハンドル部分が掛けられるトップノブを有することを特徴とする請求項 1 記載のバッグハンガ。

**【請求項 3】**

前記トップアームは、前記トップノブに回転可能に取り付けられるアーム本体と、このアーム本体のトップノブ側とは反対側の自由端部に取り付けられるヒンジと、前記ヒンジにより連結される中間拡張子とを有し、

前記ヒンジにより前記掛け吊り用の上面に沿って前記中間拡張子が開いて該上面に係止する使用位置と、前記トップフックに向けて前記中間拡張子が折り畳まれる退避位置との間で変位可能であることを特徴とする請求項 2 記載のバッグハンガ。

20

**【請求項 4】**

前記中間拡張子の前記掛け吊り用の上面に接触する部分は滑り止め部材を有することを特徴とする請求項 3 記載のバッグハンガ。

**【請求項 5】**

前記トップフックのフック先端とは反対側の下部、または前記支軸の上部には、前記フック先端に向けて突出し、前記掛け吊り用の上面から鉛直下方に延びる側面に接触する側面接触突起部を有することを特徴とする請求項 4 記載のバッグハンガ。

**【請求項 6】**

前記トップフックの内面には小突起を形成し、この小突起を前記掛け吊り用の上面に当てることを特徴とする請求項 4 または 5 記載のバッグハンガ。

30

**【請求項 7】**

前記小突起は、前記トップノブよりも前記フック先端から遠ざかる位置で形成されていることを特徴とする請求項 6 記載のバッグハンガ。

**【請求項 8】**

前記掛け吊り用の上面に当たる前記小突起の下端面に、滑り止め部材を設けたことを特徴とする請求項 6 または 7 記載のバッグハンガ。

**【請求項 9】**

前記ボトムフックに取り付けられ、前記バッグのハンドル部分に接続される接続部材を有することを特徴とする請求項 5 から 8 いずれか 1 項記載のバッグハンガ。

40

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、ハンドバッグや買い物袋などのバッグをテーブルや椅子に掛けるためのバッグハンガに関する。

**【背景技術】****【0002】**

ハンドバッグは、財布、身分証明書、薬などの個人的な品物を入れる他に、重要なファッションアクセサリとなっている。また、ハンドバッグは持ち主のスタイルに合わせて使用され、単なる物入れとしてではなく、バッグ自体にも価値がある。したがって、バッグ

50

をフロアに置いたりすると汚れが気になる。また、椅子の後ろに掛けたりして視野に入らなくなると、盗まれたり、忘れたりする可能性がある。このため、バッグの持ち主は、テーブルやカウンターの前に座る場合に、バッグをフロアや椅子の後ろに置いたりすることを躊躇する。

#### 【 0 0 0 3 】

テーブルにハンドバッグを掛けるためのバッグハンガは、従来からいろいろと提案されてきている。基本的なバッグハンガは、二方の端にフックを有する S 型の物が多い(例えば、特許文献1参照)。この S 型バッグハンガでは、上端のフックをテーブルの上面に掛けてテーブルの横から下げ、下端のフックにバッグを吊るしている。また、特許文献 2 には、偏平な方形をなした収納ケースに、回動立伏板、蓋兼用の支持板、折返片、折り返し片の支持孔に遊嵌される掛吊り用フックを設けたバッグハンガも提案されている。さらには、特許文献 3 には、取り付け台板の面に載置する摩擦板を有する支持板を設け、前記摩擦板を介して台板に支持板に係止させるようにしたバッグハンガが提案されている。

10

#### 【 先行技術文献 】

##### 【 特許文献 】

#### 【 0 0 0 4 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 9 - 1 0 1 1 0 4 号 公 報

【 特許文献 2 】 実用新案登録第 3 1 4 2 2 6 6 号 公 報

【 特許文献 3 】 特開 2 0 0 5 - 7 3 8 3 1 号 公 報

20

#### 【 発明の概要 】

#### 【 発明が解決しようとする課題 】

#### 【 0 0 0 5 】

しかしながら、特許文献 1 ~ 3 のバッグハンガは、テーブルの上面が平らでない場合や、テーブルの側面が鉛直下方に長く形成されており、テーブルの下方に空間が無い場合などには、トップフックをテーブル等の上面に係止させることが難しく、滑ってしまつてうまくバッグハンガを掛けることができない場合がある。また、テーブルの上面が平らであっても、その縁部を大きく断面円弧形状に面取り加工し丸みを帯びたものでは、この縁部が丸みを帯びてしまっているため、トップフックが丸み部分で滑ってしまい、バッグハンガに係止させることができないという問題がある。さらに、従来のものでは、テーブルや椅子の高さが低い場合に、バッグハンガに吊ると、バッグが床についてしまうという問題もある。

30

#### 【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は、テーブル上面などの掛け吊り用の上面が平らで無い場合や、平らであっても縁部が丸みを帯びるように面取り加工させている場合でも、確実にバッグを吊り下げることができるようにしたバッグハンガを提供することを目的とする。

#### 【 課題を解決するための手段 】

#### 【 0 0 0 7 】

上記目的を達成するために、本発明は、掛け吊り用の上面に掛けられるトップフックと、前記トップフックに連続する支軸と、前記支軸の下部に取り付けられるボトムフックと、前記トップフックの上部に取り付けられる二つのトップアームとを備え、前記トップアームは、前記掛け吊り用の上面に沿って相互が拡開する開位置、及び相互が閉じる閉位置との間で変位可能であり、前記開位置の二つのトップアームと前記トップフックの先端部とにより前記掛け吊り用の上面に三カ所支持で取り付けられることを特徴とする。

40

#### 【 0 0 0 8 】

また、本発明は、前記トップフックの上部に設けられ、バッグのハンドル部分が掛けられるトップノブを有することを特徴とする。そして、前記トップアームは、前記トップノブに回転可能に取り付けられるアーム本体と、このアーム本体のトップノブ側とは反対側の自由端部に取り付けられるヒンジと、前記ヒンジにより連結される中間拡張子とを有し、前記ヒンジにより前記掛け吊り用の上面に沿って前記中間拡張子が開いて該上面に係止する使用位置と、前記トップフックに向けて前記中間拡張子が折り畳まれる退避位置との

50

間で変位可能であることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

また、本発明は、前記トップフックのフック先端とは反対側の下部、または前記支軸の上部には、フック先端に向けて突出し、前記掛け吊り用の上面から鉛直下方に延びる側面に接触する側面接触突起部を有することを特徴とする。また、本発明は、前記トップフックの内面には小突起を形成し、この小突起を前記掛け吊り用の上面に当てることを特徴とする。なお、前記小突起は、前記トップノブよりも前記フック先端から遠ざかる位置で形成することが好ましい。また、前記掛け吊り用の上面に当たる前記小突起の下端面に、滑り止め部材を設けることが好ましい。また、前記ボトムフックに取り付けられ、前記バッグのハンドル部分に接続される接続部材を有することが好ましい。

10

【 0 0 1 0 】

また、前記支軸に対し略垂直になる開状態に変位可能であり、前記開状態のときに小棚を形成する複数のボトムアームを有することが好ましい。そして、前記複数のボトムアームは、一端が前記支軸に対し軸周り方向に回転可能に取り付けられているボトムアーム本体と、前記ボトムアーム本体の他端に設けられるヒンジと、前記ヒンジにより連結されて前記開状態と閉状態との間で変位可能な中間拡張子とを有することが好ましい。さらに、前記中間拡張子は、先端に旋回ヒンジと、この旋回ヒンジにより回転自在に取り付けられ、該中間拡張子の延長方向に位置する開位置と、該中間拡張子に重なる閉位置との間で変位可能な先端拡張子とを有することが好ましい。

20

【 発明の効果 】

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、トップフックと2本のトップアームとにより3点支持にて、机や椅子の上面などに係止するので、バッグハンガが上面などから脱落することなく、確実に引っかけることができる。また、トップフックにバッグのハンドル部分がかけられるトップノブを備えることにより、机や椅子などの上面が低い場合でも、確実にバッグを吊り下げることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 2 】

【 図 1 】本発明のバッグハンガの側面図であり、トップアームとボトムアームを伸ばした状態を示している。

30

【 図 2 】バッグハンガの使用状態を示す斜視図で、テーブルの上面の下方に空間がある場合を示している。

【 図 3 】同じくバッグハンガの使用状態を示す斜視図であり、テーブルの端面が鉛直下方に延びて上面の下方に空間が無い場合を示している。

【 図 4 】バッグハンガの支軸伸縮部の作用を示す側面図である。

【 図 5 】バッグハンガをバッグのアクセサリとして携帯している状態を示す正面図である。

【 図 6 】同側面図である。

【 図 7 】バッグハンガのトップアームとボトムアームを展開した状態を示す平面図である。

40

【 図 8 】トップアームのトップノブへの取り付け状態を示す正面図である。

【 図 9 】小突起を設けた別の実施形態のトップフックを示す側面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 3 】

図 1 は本発明のバッグハンガの一実施形態の側面図である。バッグハンガ 1 は、支軸 3、支軸伸縮部 5、トップフック 7、ボトムアーム 10、11、ボトムフック 50、トップノブ 60、接続部材としてのリンクデバイス 65、トップアーム 100、101 及びテーブル側面接触突起部 200 を備えている。

【 0 0 1 4 】

下から順に、ボトムフック 50、支軸 3、支軸伸縮部 5、トップフック 7 及びトップノ

50

ブ 6 0 によりハンガ本体 2 が構成されている。ハンガ本体 2 は、図 2 及び図 3 に示すように、使用状態においてトップフック 7 を上にし、ボトムフック 5 0 を下にした状態で鉛直方向に配置される。また、図 5 及び図 6 に示すように、不使用状態ではリンクデバイス 6 5 によりバッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 に吊り下げて携帯される。携帯時には、バッグ 3 0 0 の外側に垂らしてアクセサリとして用いてもよく、また、バッグ 3 0 0 内に収納してもよい。更には、リンクデバイス 6 5 を用いることなく、そのままバッグ 3 0 0 に入れて携帯してもよい。

#### 【 0 0 1 5 】

図 1 に示すように、支軸 3 の下端にはボトムフック 5 0 が固定されている。支軸 3 は、折曲部 3 a , 3 b により折り曲げられており、下鉛直部 3 c 、斜め部 3 d 、上鉛直部 3 e が形成されている。下鉛直部 3 c 及び上鉛直部 3 e は使用状態において鉛直方向に延びている。ボトムフック 5 0 は、下鉛直部 3 c の下端に対し固定されており、斜め部 3 d の鉛直下方に位置するようにその向きが配置されている。

#### 【 0 0 1 6 】

支軸伸縮部 5 は、支軸 3 の上端とトップフック 7 の下端に取り付けられている。図 4 に示すように、この支軸伸縮部 5 は、トップフック 7 の下端の締結リング 5 a を緩めると、支軸 3 とトップフック 7 との締結状態が解除され、支軸 3 内に隠れていた伸縮ロッド 6 が出てきて、伸縮ロッド 6 の長さ分だけ支軸 3 が伸長する。なお、伸長の方法やその固定方法、または締結方法などは図示例のものに限定されない。

#### 【 0 0 1 7 】

図 1 に示すように、トップフック 7 は、半円弧状のフック本体 7 a と、く字状に折り曲げられたテーブル側面接触突起部 2 0 0 とから構成されている。テーブル側面接触突起部 2 0 0 は、フック本体 7 a に対し内側に向かって窪むように形成されている。支軸伸縮部 5 で連結されるトップフック 7 と支軸 3 とボトムフック 5 0 は同一平面内に配置され、S 字形状をしている。そして、図 5 に示すように、正面から見たときに一直線状になり、不使用状態において各アーム 1 0 ~ 1 3 , 1 0 0 , 1 0 1 を最小形態で折り畳むことができる。なお、テーブル側面接触突起部 2 0 0 は、トップフック 7 以外にも、支軸 3 に形成してもよい。

#### 【 0 0 1 8 】

図 1 に示すように、トップフック 7 のフック本体 7 a の上部には、上方に向かって延びるようにトップノブ 6 0 が一体的に形成されている。トップノブ 6 0 は、先端のハート型のノブ本体 6 1 と、これに続く鼓状のハンドル掛け部 6 2 と、アーム取付軸部 6 3 , 6 4 ( 図 8 参照 ) とから構成されており、アーム取付軸部 6 3 , 6 4 の下端がフック 7 の上部に取り付けられている。トップノブ 6 0 とフック 7 と支軸 3 は一体的に構成する他に、各種固着手段で組み合わせて一体化したものであってもよい。なお、必要に応じて、適宜に各種装飾が施される。このトップノブ 6 0 には、図 2 に示すように、バッグ 3 0 5 のハンドル部分 3 0 6 が掛けられる。このように、テーブル 4 0 0 の上面 4 0 3 からバッグ 3 0 5 を直接に吊り下げることができるため、テーブル 4 0 0 の上面 4 0 3 や、もしくは椅子の上面などの掛け吊り用の上面が床から低い場合にも、従来の下側のフックを用いるものに比べて、高い位置から吊り下げることができ、バッグ 3 0 5 が床に着いてしまうということが少なくなる。なお、掛け吊り用の上面はテーブルや椅子に限られず、棚やその他の係止可能物の上面に掛けることができる。

#### 【 0 0 1 9 】

トップノブ 6 0 とトップフック 7 との間で、トップノブ 6 0 の基部には 1 対のトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 が、トップノブ 6 0 周りに 1 8 0 度回転可能に取り付けられている。図 1 及び図 8 に示すように、トップアーム 1 0 0 , 1 0 1 は、アーム本体 1 0 0 a , 1 0 1 a と、ヒンジ 1 0 2 , 1 0 3 と、中間拡張子 1 1 0 , 1 1 1 と、中間拡張子 1 1 0 , 1 1 1 のテーブル接触面に貼り付けられている滑り止め部材 9 9 から構成されている。滑り止め部材 9 9 は、テーブル 4 0 0 の上面 4 0 3 との間で摩擦係数の高いものが選択使用される。例えば、ゴム板や軟質部材などが用いられる。また、ゴム板や軟質部材に代えて、

10

20

30

40

50

中間拡張子のテーブル接触面に微細な凹凸を形成して滑り止めとしたものでもよい。

【0020】

図8に示すように、アーム本体100a, 101aは略円弧状に湾曲している。このアーム本体100a, 101aは一端に取付端部104, 105を有し、他端にヒンジ102, 103を有する。取付端部104, 105は、トップノブ60の下端部の二股状に別れた取付軸部63, 64に180度の範囲で回動可能に取り付けられており、図示しないフリクション機構によって任意の回転角度で停止させることができる。なお、フリクション機構に代えて、クリック機構によって取付軸部63, 64へ固定してもよい。このようにして、取付端部104, 105により、トップアーム100, 101は、トップノブ60に対し任意の回転角度で固定させることができ、例えば図7に示すように、トップアーム100, 101同士を任意の拡開角度で、例えば80度で開くことができる。

10

【0021】

図1に示すように、ヒンジ102, 103により、中間拡張子110, 111がトップアーム本体100a, 101aの先端に回転自在に接続されている。ヒンジ102, 103は、中間拡張子110, 111を、図2及び図3に示すようにテーブル上面403に沿う係止位置と、図6に示すように下方に向けて垂直に位置させる閉位置との間で選択的に位置させる。なお、図6ではハンガ本体2が不使用状態とされており、図1とはハンガ本体2の向きが上下逆になっている。

【0022】

図2及び図3に示すように、係止位置ではヒンジ102, 103により中間拡張子110, 111が上面403に沿って延びた状態になる。二つのトップアーム100, 101をトップノブ60の周りに適宜角度を開けて放射線方向に配置し、中間拡張子を係止位置とすることにより、二つのトップアーム100, 101と中央のトップフック7の先端とにより、三カ所支持にて、ハンガ本体2をテーブル400の上面403に確実に係止させることができる。しかも、中間拡張子110, 111を係止位置として拡げることで、広い面積にて安定的にバッグハンガ1を上面403に係止させることができる。

20

【0023】

ハンガ本体2には、トップアーム100, 101の他に、ボトムアーム10, 11, 12, 13が、ボトムフック50の近くで支軸3に対し回転自在に取り付けられている。このボトムアーム10~13は、支軸3に対し任意の回転角度で停止させることができ、例えば図2に示すように、ボトムアーム10~13を任意の拡開角度で開くことができる。なお、ボトムアーム10~13は、ボトムフック50の近くに取り付けることにより、小棚49として利用する時に、小棚49の上部に多くのスペースを確保することができる。

30

【0024】

ボトムアーム10~13は、アーム本体10a, 11a, 12a, 13aと、ヒンジ15, 16, 17, 18と、中間拡張子20, 21, 22, 23と、先端拡張子40, 41, 42, 43とから構成されている。アーム本体10a~13aの一端には取付端部が形成されていて、この取付端部によりアーム本体10aが、支軸3に回転自在に取り付けられる。この取付構造は図8に示すトップアーム100, 101の取付構造と同様である。すなわち、支軸3が二股状に別れた取付軸部となっており、これに任意角度で停止自在に取り付けられる。

40

【0025】

図2に示すように、アーム本体10a~13aの支軸3に対する取り付け側とは反対側の自由端には、ヒンジ15~18が設けられている。このヒンジ15~18により、中間拡張子20~23がボトムアーム10~13の先端に回転自在に接続されている。ヒンジ15~18は、中間拡張子20~23をアーム本体10a~13aの延長方向に位置させる開位置と、図6に示すように、中間拡張子20~23をアーム本体10a~13aに対し上方に向けて90度折り曲げた閉位置との間で選択的に位置させる。開位置ではアーム本体10a~13aに対し一直線状に連結された状態になる。また、中間拡張子20~23の先端には旋回ヒンジ30~33を介して、先端拡張子40~43が取り付けられる。

50

## 【 0 0 2 6 】

旋回ヒンジ 3 0 ~ 3 3 は、先端拡張子 4 0 ~ 4 3 を中間拡張子 2 0 ~ 2 3 に重ねた格納位置と、この格納位置から 1 8 0 度回転して、中間拡張子 2 0 ~ 2 3 の延長方向に延びるように取り付けられる拡張位置との間で変位する。したがって、図 2 及び図 3 に示すように、ボトムアーム 1 0 ~ 1 3 を支軸 3 の周りに適宜角度を開けて放射線方向に配置し、更に中間拡張子 2 0 ~ 2 3 を開位置とし、先端拡張子 4 0 ~ 4 3 を拡張位置とすることで、4 つのボトムアーム 1 0 ~ 1 3 により小棚 4 9 を形成することができる。この小棚 4 9 には、ノートや本やその他の小物などを載せることができる。

## 【 0 0 2 7 】

リンクデバイス 6 5 は、リング 7 0 とチェーン 7 1 とから構成されている。なお、リンクデバイス 6 5 は、バッグのハンドル部分などにバッグハンガ 1 を取り付けることができればよく、リング 7 0 とチェーン 7 1 に限られない。例えば、リング 7 0 に代えて、クランプを用いてもよい。また、チェーン 7 1 に代えて、紐やその他のコード、バンド等の連結部材であってもよい。なお、チェーンは短くすることで、携帯に便利な他にチェーンを用いて吊るす場合には、短い状態で吊るすことができ、ハンドル部分が長いバッグ等であっても、バッグが床に付くことなく使用することができる。また、チェーンを太くすることにより、強度を上げることができ、重いバッグであってもリンクデバイス 6 5 を用いて吊るすことができる。

## 【 0 0 2 8 】

トップフック 7 の内側には、図 9 に示すように、小突起 2 5 0 を設けてもよい。この小突起 2 5 0 は、二つのトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 とトップフック 7 の先端部との三力所の支持に加えて、四力所目の支持部となる。この小突起 2 5 0 を追加することで、係止を確実に行うことができる。例えば、バーのカウンターのように、手が触れるテーブルの上面と端面との角部分を丸く面取り加工し、その上面に革などが張られてテーブル上面から盛り上がっている場合でも、小突起 2 5 0 による四力所目の支持部と、テーブル側面接触突起部 2 0 0 による五力所目の支持とによって、丸く面取りされた部分からトップフック 7 の先端が脱落してしまうこともなく、確実にバッグハンガ 1 を取り付けることができる。なお、小突起 2 5 0 の下端面またはこの下端面を含む下端部には、ゴムまたは軟質部材からなる滑り止め板または滑り止めキャップ 2 5 1 を設けることが好ましい。

## 【 0 0 2 9 】

バッグハンガ 1 を構成する各部材は、アルミニウムやその他の軽量の金属で形成することが好ましい。なお、軽量金属以外でも、他の自然素材または合成素材から構成することができる。例えば、各種金属合金、木材、または他の繊維植物製品、麻、紙、段ボール、ガラス、グラファイト、ガラス繊維、ホウ素またはケブラーなどの複合材料、樹脂、硬質な革、骨や、これらを組み合わせた複合材料などを用いることができる。また、各部のサイズや形状は、適宜に変更が可能であり、多様な各種態様で実施することができる。

## 【 0 0 3 0 】

また、トップアーム 1 0 0 , 1 0 1 やボトムアーム 1 0 ~ 1 3 の拡張構造も、ヒンジ結合の他に、折り畳み式、テレスコープ式など任意の連結方式を用いることができる。

## 【 0 0 3 1 】

以上のように、図 2 及び図 3 に示すように、使用状態では、トップアーム 1 0 0 , 1 0 1 を拡張させて三力所の支持にて上面 4 0 3 に係止させることができ、脱落することなく確実な係止が行える。また、閉状態では図 5 及び図 6 に示すように、小さく折り畳むことができ、携帯に便利になる。なお、本発明のバッグハンガ 1 は各種装飾を施すことが好ましい。例えば、全体の形態を、果物や野菜、蝶やバッタなどの昆虫や、その他の鳥とか花とか、いろいろな動植物や造形物などに似せて形成し、それに加えて適宜宝石などを付加することで、より装飾性を高めることができる。このとき、各アーム 1 0 ~ 1 3 , 1 0 0 , 1 0 1 を羽根や足、さらには花びら等として形成することができる。

## 【 0 0 3 2 】

図 2 は、バッグハンガ 1 の使用状態を側面から見た斜視図であり、テーブル 4 0 0 の上

10

20

30

40

50

面 4 0 3 に、2 本のトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 を広げた状態を示している。この 2 本のトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 とトップフック 7 とによる三カ所の支持で、バッグハンガ 1 をテーブル 4 0 0 の上面 4 0 3 に係止させている。ボトムフック 5 0 に取り付けられたリンクデバイス 6 5 のリング 7 0 に、バッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 が取り付けられており、リンクデバイス 6 5 によりバッグ 3 0 0 をそのまま、吊り下げることができる。なお、必要に応じて、ハンドル部分 3 0 1 をボトムフック 5 0 に直接に吊り下げてもよい。更には、ハンドル部分 3 0 6 が長いバッグ 3 0 5 の場合には、トップノブ 6 0 にハンドル部分 3 0 6 を掛けることで、床に付くことなくバッグ 3 0 5 を掛けることができる。また、ボトムフック 5 0 やトップノブ 6 0 には、バッグ 3 0 0 , 3 0 5 の他に買い物袋（図示せず）などを吊り下げることができる。

10

#### 【 0 0 3 3 】

このように、リンクデバイス 6 5 を用いた第 1 の吊り下げと、ボトムフック 5 0 を用いた第 2 の吊り下げと、トップノブ 6 0 を用いた第 3 の吊り下げを選択することができる。したがって、バッグ 3 0 0 , 3 0 5 のハンドル部分 3 0 1 , 3 0 6 の長さやテーブル 4 0 0 の床から上面 4 0 3 までの高さに応じて、これらいずれかの吊り下げ態様を選択することで、バッグ 3 0 0 , 3 0 5 を床に接触させることなく、吊り下げることができる。

#### 【 0 0 3 4 】

また、図 2 及び図 3 に示すように、4 本のボトムアーム 1 0 ~ 1 3 を略等間隔の開き角度で開き、且つ中間拡張子 2 0 ~ 2 3、先端拡張子 4 0 ~ 4 3 をボトムアーム本体 1 0 a ~ 1 3 a の延長方向に伸ばすことで、小棚 4 9 を構成することができる。この小棚 4 9 には、本、ノートやペーパーバッグ、そして、ボトムフック等には掛けることができない小物などを置くことができる。このとき、側面接触突起部 2 0 0 をテーブル 4 0 0 の端面 4 0 2 に当てることで、小棚 4 9 を水平に保つことができ、小棚 4 9 に載せたノートなどが脱落することがなくなる。図 2 では、テーブル 4 0 0 の端面 4 0 2 はテーブル 4 0 0 の足 4 0 1 よりも外側に張り出しているため、張り出したテーブル 4 0 0 の下方に、小棚 4 9 を形成することができる。したがって、人がテーブル 4 0 0 の側を通ったとしても、バックハンガ 1 や小棚 4 9 にぶつからない様な状態になる。

20

#### 【 0 0 3 5 】

図 3 は、端面 4 1 0 が鉛直下方まで延びたテーブル 4 0 5 に、本発明のバッグハンガ 1 を取り付けした状態を側面から見た斜視図である。図 3 では、端面 4 1 0 の外側に、ボトムアーム 1 0 ~ 1 3 を広げて小棚 4 9 を形成した使用例を示している。なお、図 3 では、バッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 をボトムフック 5 0 に掛けているが、これは図 2 と同様にリンクデバイス 6 5 を用いて吊り下げても、またはトップノブ 6 0 を用いて吊り下げてもよい。この場合にも、側面接触突起部 2 0 0 を端面 4 1 0 に当てることで、小棚 4 9 を水平に保持することができる。また、バッグ 3 0 0 の他に、買い物袋などを吊り下げることができる。

30

#### 【 0 0 3 6 】

支軸 3 が短くてバランス良く、トップアーム 1 0 0 , 1 0 1 及びトップフック 7 がテーブル 4 0 0 の上面 4 0 3 に展開できない場合に、図 4 に示すように、支軸伸縮部 5 を伸ばして使用する。これにより、伸ばした支軸 3 の下端にあるボトムフック 5 0、またはリンクデバイス 6 5 にバッグ 3 0 0 を吊るすことで、バッグ 3 0 0 の重量をトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 及びトップフック 7 がテーブル上面 4 0 3 に係止する方向に作用させることができ、安定的にバッグハンガ 1 を使用することができる。

40

#### 【 0 0 3 7 】

図 5 及び図 6 は、バッグハンガ 1 の携帯状態を示している。携帯状態では、バッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 を、リンクデバイス 6 5 のリング 7 0 に通しておき、バッグ 3 0 0 のアクセサリとして使用することができる。この携帯状態では、リンクデバイス 6 5 でバッグハンガ 1 がハンドル部分 3 0 1 に吊り下げられる。そして、ボトムアーム 1 0 ~ 1 3 及びトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 がコンパクトに折り畳まれる。したがって、嵩張ることなく、携帯に便利となる。また、コンパクトに折り畳んだ状態で、果物、野菜、昆虫や

50



鳥、花などの形態に似せることで、装飾的效果も得られる。

#### 【0038】

図6は、図5に示すバッグハンガ1を折り畳んだ状態を90度回転させた状態を示している。ボトムアーム本体10a, 11aに対し、中間拡張子20, 21を90度に折り畳み、且つ中間拡張子20, 21に対し先端拡張子40, 41を180度回転させて両者を重ね合わせることで、コンパクトに折り畳むことができる。また、トップアーム本体101aに対し中間拡張子111を90度に折り畳むことで、中間拡張子111を支軸3に沿って配置させることができ、コンパクトに折り畳むことができる。なお、他のトップアーム及びボトムアームも同様に折り畳まれる。

#### 【0039】

図7は、バッグハンガ1の各アーム10~13、100, 101を拡開した状態を上から見た平面図である。トップアーム100, 101をトップフック7に対して、40度ずつ振り分けて拡開することで、2本のトップアーム100, 101と一つのトップフック7とにより三カ所の支持でテーブル上面403にバッグハンガ1を係止することができる。また、1対のボトムアーム同士10, 12、11, 13を約80度の角度で開くことで、4つのボトムアーム10~13を用いて小棚49を形成することができる。この小棚49には、ノートや本などを置くことができる。また、図7に示すように、先端拡張子43にクリップ600を設けることで、ペーパー等も挟持することができ、便利である。

#### 【0040】

なお、図8のような二股状の取付軸部63, 64に代えて、一つの軸部に対し、円板状の回転取付部を回転自在に取り付けて、トップアーム100, 101やボトムアーム10~13を回転自在に取り付けてもよい。この場合には、回転取付部の相互の接触面に摩擦機構や溝などを設けてクリック係止が可能ないように構成する。これにより、任意角度で各アーム10~13、100, 101を停止させることができる。

#### 【0041】

上記実施形態では、トップノブ60、支軸伸縮部5、ボトムアーム10~13、リンクデバイス65などを備えたバッグハンガ1としているが、これらは適宜省略してもよい。すなわち、掛け吊り用のテーブル上面403に掛けられるトップフック7と、前記トップフック7に連続する支軸3と、前記支軸3の下部に取り付けられるボトムフック50と、前記トップフック7の上部に取り付けられる二つのトップアーム100, 101とを備えればよい。そして、トップアーム100, 101は、テーブル上面403に沿って相互が拡開する開位置、及び相互が閉じる閉位置との間で変位可能であり、前記開位置の二つのトップアーム100, 101と前記トップフック7の先端部とによりテーブル上面403に三カ所支持で取り付けられる構成であればよい。

#### 【0042】

さらに、上記の最小構成に、前記トップフック7の上部に設けられ、バッグ305のハンドル部分306が掛けられるトップノブ60を有することが好ましい。また、トップアーム100, 101は、トップノブ60に回転可能に取り付けられるアーム本体100a, 101aと、このアーム本体100a, 101aのトップノブ60側とは反対側の自由端部に取り付けられるヒンジ102, 103と、前記ヒンジ102, 103により連結される中間拡張子110, 111とを有し、前記ヒンジ102, 103によりテーブル上面403に沿って前記中間拡張子110, 111が開いて該上面403に係止する使用位置と、前記トップフック7に向けて前記中間拡張子110, 111が折り畳まれる退避位置との間で変位可能に構成されていることが好ましい。なお、中間拡張子110, 111は省略してもよい。

#### 【0043】

さらに、前記中間拡張子110, 111のテーブル上面403に接触する部分は滑り止め部材99が取り付けられることにより、テーブル400, 405に中間拡張子110, 111を確実に係止させることができ、バッグハンガ1の脱落を阻止することができる。

#### 【0044】

10

20

30

40

50

前記トップフック 7 のフック先端とは反対側の下部、または前記支軸 3 の上部には、前記フック先端に向けて突出し、前記テーブル上面 4 0 3 から鉛直下方に延びる側面に接触する側面接触突起部 2 0 0 を更に有することにより、バッグハンガ 1 のバランスを取ることができ、バッグ 3 0 0 の重量を効果的にトップフック 7 やトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 、更には側面接触突起部 2 0 0 に分散させることができ、バッグハンガ 1 を確実にテーブル上面 4 0 3 に係止させることができる。

#### 【 0 0 4 5 】

図 9 に示すように、トップフック 7 の内面には小突起 2 5 0 を形成し、この小突起 2 5 0 を前記掛け吊り用の上面に当てることにより、トップフック 7 と 2 本のトップアーム 1 0 0 , 1 0 1 の三カ所支持に加えて、さらに追加の支持を加えることができ、バッグハンガ 1 の上面への係止を確実に行うことができる。特に、テーブルの角部が丸く面取り加工されている場合や、さらにテーブルの縁が革等で盛り上げられている場合でも、この小突起 2 5 0 が面取り加工部分や革等で盛り上がった部分に係止し、トップフックが 7 脱落することなく、確実に上面に係止させることができる。

#### 【 0 0 4 6 】

小突起 2 5 0 は、トップノブ 6 0 よりもフック 7 の先端から遠ざかる位置で形成されていることにより、トップノブ 6 0 にバッグのハンドル部分を吊り下げた場合でも、小突起 2 5 0 にバッグの荷重がかかり、係止が確実に行える。また、掛け吊り用の上面に当たる小突起 2 5 0 の下端面に、滑り止め部材としてのキャップ 2 5 1 を設けることにより、係止をより一層、確実に行うことができる。

#### 【 0 0 4 7 】

さらに、ボトムフック 5 0 に取り付けられ、前記バッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 に接続される接続部材としてのリンクデバイス 6 5 を有することにより、通常はバッグ 3 0 0 のハンドル部分 3 0 1 に吊り下げておき、テーブル上面 4 0 3 にバッグ 3 0 0 を吊るすときに、トップアーム 1 0 0 , 1 0 1 を拡げて、テーブル上面 4 0 3 に係止させることにより、即時にバッグハンガ 1 として使用することができる。

#### 【 0 0 4 8 】

また、前記支軸 3 に対し略垂直になる開状態に変位可能であり、前記開状態のときに小棚 4 9 を形成する複数のボトムアーム 1 0 ~ 1 3 を有することにより、フック等に吊り下げることができないノートや小物等を載せておくことができる。

#### 【 0 0 4 9 】

前記複数のボトムアーム 1 0 ~ 1 3 は、一端が前記支軸 3 に対し軸周り方向に回転可能に取り付けられているボトムアーム本体 1 0 a ~ 1 3 a と、前記ボトムアーム本体 1 0 a ~ 1 3 a の他端に設けられるヒンジ 1 5 ~ 1 8 と、ヒンジ 1 5 ~ 1 8 により連結されて前記開状態と閉状態との間で変位可能な中間拡張子 2 0 ~ 2 3 とを有することにより、使用する時はこれらを拡げることで比較的広い面積の小棚 4 9 を形成することができる。

#### 【 0 0 5 0 】

さらに、前記中間拡張子 2 0 ~ 2 3 は、先端に旋回ヒンジ 3 0 ~ 3 3 と、この旋回ヒンジ 3 0 ~ 3 3 により回転自在に取り付けられ、該中間拡張子 2 0 ~ 2 3 の延長方向に位置する開位置と、該中間拡張子 2 0 ~ 2 3 に重なる閉位置との間で変位可能な先端拡張子 4 0 ~ 4 3 とを有することにより、更に広い面積の小棚 4 9 を形成することができる。

#### 【 符号の説明 】

#### 【 0 0 5 1 】

- 1 バッグハンガ
- 2 ハンガ本体
- 3 支軸
- 7 トップフック
- 1 0 ~ 1 3 ボトムアーム
- 1 0 a ~ 1 3 a ボトムアーム本体
- 1 5 ~ 1 8 ヒンジ

10

20

30

40

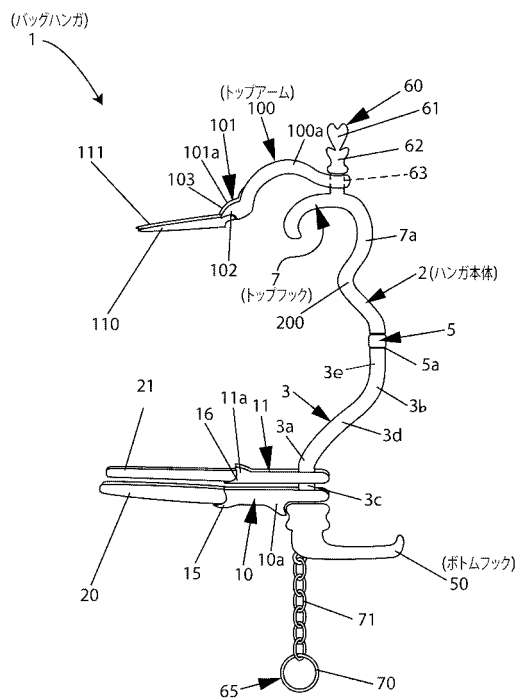
50

- 20 ~ 23 ボトムアーム中間拡張子  
 30 ~ 33 旋回ヒンジ  
 40 ~ 43 先端拡張子  
 49 小棚  
 50 ボトムフック  
 60 トップノブ  
 65 リンクデバイス  
 70 リング  
 71 チェーン  
 99 滑り止め部材  
 100a ~ 101a トップアーム本体  
 100, 101 トップアーム  
 102, 103 ヒンジ  
 104, 105 取付端部  
 110, 111 トップアーム中間拡張子  
 200 側面接触突起部  
 250 小突起  
 300, 305 バッグ  
 301, 306 ハンドル部分  
 400, 405 テーブル  
 401 足  
 402 端面  
 403 上面  
 410 側面

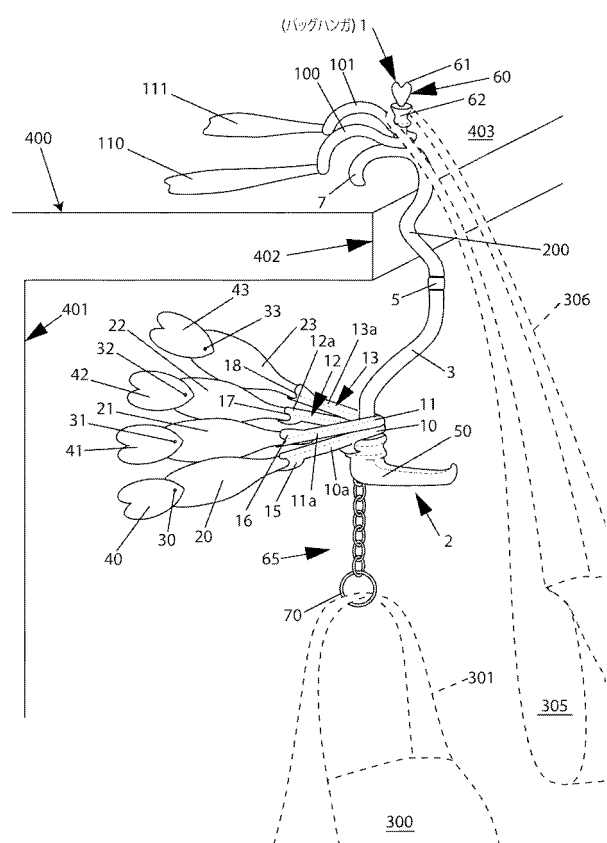
10

20

【図 1】

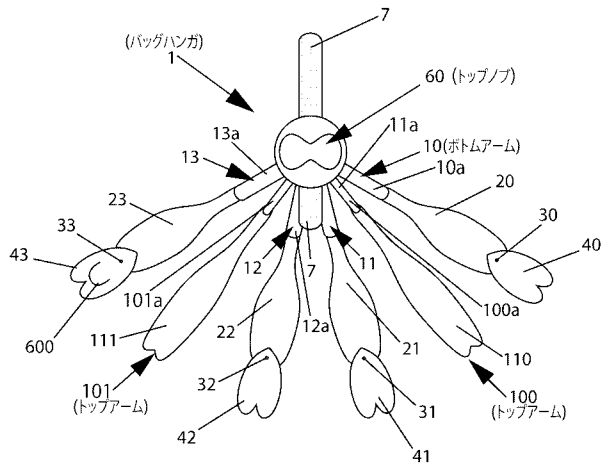


【図 2】

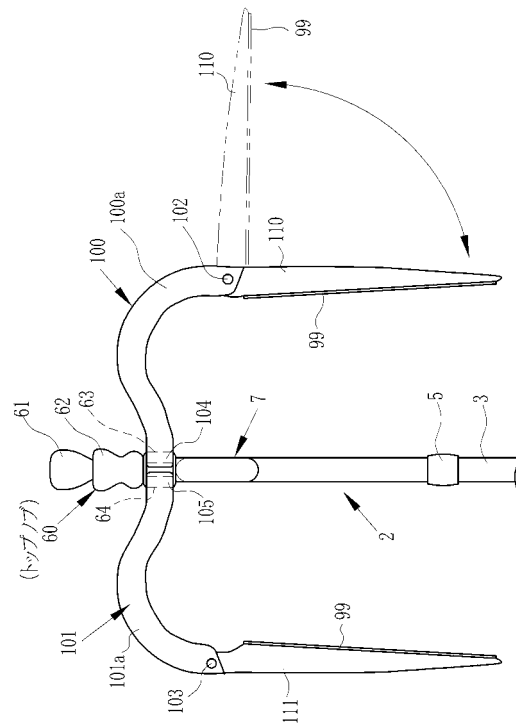




【図 7】



【図 8】



【図 9】

